

四万十川源流点



かざね

四万十の風音

しんせん

森&川だより



源流域のアメゴ

◇春の遠足で森林教室

「滑床山開き」にあわせて

4月25日、滑床溪谷で、恒例となっている松野町等主催の滑床山開きが行われ、これに合わせて、遠足を兼ねて参加していた地元の松野南小学校の児童12名（目黒緑の少年隊）を対象に、森林教室を実施しました。ネイチャーゲーム（カモフラージュ・葉っぱジャンケン）を楽しんだ後、溪谷入り口の芝生広場周辺の樹木を学習。

樹木の名前やその由来、使われ方などについて説明しました。その後、樹木名板を作り、樹木に取り付けました。滑床溪谷を訪れた時には、樹木名板を見てこの日の森林教室を思い出してくれることでしょう。



ジャンケン葉っぱ！



完成しました！樹木名板

◇堂ヶ森風景林でPR活動

5月5日、風景林として保護され貴重な天然林が残っている堂ヶ森（標高857m）山頂で、毎年恒例の堂ヶ森祭りが、地域住民約50人が参加して行われ、神事後、もち投げやちびっ子相撲などを楽しみました。堂ヶ森周辺は、当センターが森林教室として活動している区域であることから、毎年、活動の安全祈願を込めて参加しています。

また、地域の代表の方から周辺整備の要望を聞いたり、参加した人たちに業務活動をPRするなど交流を深めました。



生憎の悪天候ですが盛況のもち投げです

◇海の玄関で森林をPR

「松山観光港でパネル展」

5月12日から25日まで、松山市の松山観光港ターミナルロビーで「ふれあいセンターパネル展」を行いました。

松山観光港は、九州・中国地方への玄関口で年間約120万人が利用しており、ふれあいセンターが取り組んでいる自然再生の内容や森林環境教育の活動状況をわかりやすくパネル展示したところ、航路を利用する多数の人たちが足を止めて熱心に見入っていました。



ターミナルロビーでのパネル展



樹木の説明に熱心にメモを取る子どもたち



パネルを見入る観光客

◇この木・何の木？気になる木？

①校庭の樹木を学習

愛媛県の松野町立松野西小学校は、例年、4年生の総合的な学習の時間を活用した森林環境学習に取り組んでいます。今年度、第1回目は、「木を知ろう」をテーマに5月29日に実施しました。

導入では、シカによる森林被害やマツ再生の取組などふれあいセンターの仕事を紹介した後、葉っぱの各部分の名前や形、付き方を説明して樹木への関心を持たせました。校庭では、約30種類の樹木について、用途や花の開花時期、木の実の違いなどについて説明。児童は、ワークシートへ熱心に書き込んでいました。

最後に、「学校に実のなる木があることを初めて知った」「イチヨウは広葉樹ではなかった」「おとなしいと思ったシカが、悪いことをすると聞いてビックリした」など次々に発表があり、樹木への関心は大いに高まったようです。

②いくつ覚えたかな？

－校庭で樹木名板を取付－

6月26日、松野西小学校4年生の第2回目の森林環境学習は、前回勉強した樹木の名板を作成し、校庭で取り付けました。

用意された輪切りの板を手にした児童は、早速、思い思いのイラストや樹木名を下書きし、ポスターカラーなどで色付けしていきました。そして、完成した名板を持って校庭に出て、前回の復習をしながら約30本の木に取り付けました。

子どもたちにとって、毎日目にする校庭の樹木に、自分たちが製作した名板を取り付けることによって、樹木名を覚えたり樹木や森林に関心を持つきっかけになると思います。



出来ました！僕、私の樹木名板

◇四万十・流域圏学会に参加

5月31日、香美市土佐山田町の高知県森林総合センター・情報交流館で開催された四万十・流域圏学会第8回学術研究発表

会で、「滑床山国有林シカ食害地の植生回復への取組み」と題して平成18年度から取り組んでいる滑床山山頂周辺の植生回復状況をポスターセッションで紹介しました。当日は、企画パネルセッション「地球環境時代の森林の保全・再生と緑のダム」において川上計画部長が「地球温暖化と森林」と題して話題提供をしました。



話題提供をする川上計画部長

◇風景林で高校生に森林環境教育

－行きはこわごわ帰りはルンルン－

6月13日、四万十高校1年生24名を対象に森林環境教育を実施しました。今回は、7月に予定されている屋久島研修を控えて、体力養成や山歩きも体験させたいとの学校の意向を受けて、構原町にある久保谷風景林をフィールドにしました。風景林の入り口では地図の見方や風景林について勉強をし、早速歩き始めました。天然ヒノキやモミなどの巨木が続く比較的なだらかな登りのコースですが、沢山の落ち葉を踏



モミ、ツガ巨木群生地

みしめて歩くことから、「キャー、すべる」

「待って待って！」を連発してこわごわのスタート。

帰路は、アカガシが林立するコースを歩き、樹齢500年とも言われている久保谷風景林のシンボルツリーの巨大アカガシで足を止め、改めてその大きさに驚いていました。生徒たちも徐々に山歩きに慣れた様子で足取りも軽く下山。



アカガシの大きさは？

最後に生徒代表から、「森林について、いろいろな学習ができました。また、屋久島では、今日の体験を生かしたいと思います」との感想がありました。

◇「私はブローチ」「僕はカブトムシ」「フリーランダー」で木工教室

6月22日、宇和島市立三間小学校では、外部講師を招いて、工作、絵本づくり、音楽・合奏など9種類の体験教室「フリーランダー」を開き、当センターが担当した木工教室には、1年生から6年生までの子ども20名とその保護者を合わせた約40人が参加。最初に、プロジェクターを使って「くらしに役立つ木」と題して、身の回りで使われている木の特徴や長所、短所を子どもたちにも解りやすく説明しました。その後、木工づくりに挑戦。カブトムシ、



木工の様子：親子で夢中！

クマのブローチ、キーホルダーとそれぞれが工夫を凝らした木工クラフトを作成しました。

保護者も汗だくで作製するなど、一段と親子のコミュニケーションがはかれ有意義な一日となりました。



女の子だって糸鋸も簡単！！

闘していましたが、励まし協力しながら、2時間後には長さ4mの竹材約50本ができました。これを使って、7月15日には「イカダ」を組み立てることとしています。



慣れない手つきで伐採中



大きい竹は協力して！

◇四万十川で「イカダ」に乗ろう

—まずは竹の伐採から—

6月24日、地元にある西土佐中学校1年生23名が、近くの竹林で伐採に挑戦しました。同校では、5年前から、生徒自らが竹を伐採して加工・組立し、四万十川でイカダに乗る体験学習を実施しています。

今年も、ふれあいセンターに支援の要請があり、指導にあたりました。

生徒たちは、職員から、伐採の仕方や安全作業の注意を聞き、4班に分かれて竹林へ移動。慣れないノコギリの使用で悪戦苦



苦勞して集めた竹

◆ご相談を受け付けています

ふれあいセンターでは、自然再生活動や生物多様性の保全活動に関心のあるNPO等の団体や、森林環境教育を実施したい教育関係者の方々からの様々なご相談を受け付けています。お気軽にふれあいセンターまでご相談下さい。

☆ふれあいセンター：スタッフの紹介

所長 上席自然再生指導官 秋山雅弘
 自然再生指導官 石黒和博
 (新任) 自然再生指導官 武内幸子 (平成20年4月1日付四国森林管理局総務課から)
 (〃) 自然再生指導官 隅田雄二 (〃 〃 指導普及課から)
 ☆どうぞよろしくお願ひします。

※表紙の源流域のアメゴの写真は、高知県津野町 豊田庄二氏からの提供です。

林野庁 四万十川森林環境保全ふれあいセンター
 TEL0880-31-6030/FAX0880-31-6031
 〒787-1601 高知県四万十市西土佐江川崎2405番地